第 2016-29 号

恵みと真理のニュース

2016 年 7 月の三次　恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

神様が高血圧を治療してくださり、祈ることに答えてくださったこと感謝します

私のようなものを選んでくださり子供としてくださり、尊い者で作ってくださったのを感謝します。礼拝し福音を伝え奉仕する楽しさを与えてくださったことも神様に感謝します。私達の教会で当会長の牧師の説教を聞き受けた御言葉の通り実践し毎日信仰が成長して幸せな生活をするように導いた主を賛美します。
私は青年の頃イエス様が私の罪を赦してくださり、その贖いの恵と真理に対する悟りがなくただ教会に通いました。そうするうちに1986年スワンで結婚をして当時隣の家に住む区域長に導かれ清い礼拝の雰囲気と当会長の牧師の説教に恵まれてはじめて強い信仰を持つようになり熱心に信仰生活をする聖徒に変りました。
私が熱心に教会を通い礼拝中心の生活をすると姑と旦那の迫害も酷くなりました。偶像崇拝をした姑は弁当を持って寺に行き100日間夜も昼も祈るほどでした。姑の迫害が酷くなればなれるほど私の信仰が強くなりました。姑が寺に行ってお参りをしする時に私は午前断食祈りとダニエル祈りなど姑の悔い改めと家族の救いのため涙を流して切に祈りました。
そのように私が熱心に祈って福音を伝えた10年が過ぎて姑が悔い改めてイエス様を救い主として受け入れました。 姑は教会に何回来て“なぜ、私がこのように良い所に来るようになったのか、なぜ今になってイエス様を信じたのかわからない。”と言い喜びました。賛美し祈って神様に委ねる生活をしながら90歳の時に明るくてきれいな姿で神様に召されました。
その間旦那も神様の恵みでイエス様を信じるようになり、熱心に主日礼拝を捧げマンナ室で奉仕する難しさがないように助けてくださる祈ってくださる後見者で変りました。本当に神様に感謝したのかわかりまえん。うらやましいことがなかったです。

私は30代半ばに至って神様に祈りを捧げました。“神様、これから主の事に専念します。私の人生を責任してください。年を取って神様を恨まないように物質と様々な世の誘惑をすべて勝つように導いてください。”
そのごろ当会長牧師は“商売に利益を得るためするのですが、この世で生きながら一番良いの得る商売は主を支える事です。”と話しました。牧師は私が支える聖殿に来る時に主の事だけ専念する環境になるのを願いながら牧師から祈りを受けました。
国全体が経済的に不況になり私の家庭も経済的に苦しくなった時に、区域長のセミナに参席して“神様、これから教会の奉仕が出来なさそうです。
今日セミナが終わってからお金を稼がなければなりません。
“涙を流して祈りました。みんな共に祈った後当会長の牧師が生活が安定し、心と体が健康な状態で区域長の職分をよく担えるように祝福の祈りをしてくださいました。私のため福を与えて下さるのを強く信じて大きい声でアーメンと答えました。
その後、一ヶ月が過ぎて本当に奇跡的で毎月固定収入が入りました。会社事が苦しかった時に退職して退職金を受けてそのお金で賃貸事業をすることが出来ました。旦那は私にこれから家の心配はしなくて主の事に専念すると決心して祈った後、今まで25年間その通り実践して区域長の職分を担えたら神様は老後の心配がないようにしてくださいました。
2011年最後の礼拝を捧げて新年祝福聖会に参席する前祈り課題を全部ノートに書いている時に旦那が“あなたは様々な祈りに全部答えられのに高血圧を治療してくださいと祈らないのか？と剣突を食わしました。今年は必ず高血圧を治療してくださいと一番最初に書きました。神様は旦那を通して話すようでした。
祝福聖会で当会長の牧師が治癒のため祈ってくださると“高血圧、治療される！と宣布しました。私は口でアーメンと答えましたが心の奥には“いくら神様ですが、私が長く患った高血圧も治療してくださるのか？と疑いました。
その日から何ヶ月が過ぎなくて血圧が上昇し続けました。170～190まで上がて病院を探し回りましたが、病院に行くほど強い薬を処方して朝と夜に飲ませるようにしました。そんな状況で村に大学病院が開院してその病院で相談をしたら心が楽になり全部治ったようでした。
病院に行って検査の結果はふしんにこぶあると言われCT撮影をしたらやはりこぶがありました。病院ではすぐ手術をしようとしましたが何日後には尊いクリスマス礼拝もあるし、年越し礼拝、新年祝福礼拝が続いたので手術を延期しました。1月3日水曜礼拝まで参席して切に祈ったあと入院して手術をしました。手術をする前、太ももの血管に管を入れて両方の副腎で血をたくさんとる手術をしました。しかし、麻酔が出来なくて苦痛が酷くなり大きく悲鳴をあげて泣きました。イエス様が十字架に死なれる時このように痛かったのかと思うほどでした。
恐れることはない、私はあなたと共にいる神。他事ろくな、わたしはあなたの神、勢いを与えあなたを助け、私の救いの右の出あなたを支える。
(イザヤ書41：10)は御言葉を覚えてかろうじてなき声はとまりましたが涙は流しました。そして医師が“そんなに痛いですか？”と聞いたらその瞬間、“私の娘よ。私があなたを愛するよ。私があなたを癒してあげよう。”神様の声が聞こえて来ました。奇異なことです。私は“神様、わが父よ。感謝します。治療する神様の恵みを証しします。”としました。
そして、医師の前で手術を受けたらすぐ治ると確信しました。医師は私が12年間高血圧の薬を飲んだから血管が伸びってしまて遺伝的の影響もあって手術を受けても高血圧の症状はなくならないと言われましたが。私の心には神様が治療してくださる確信を得たからです。
手術を受けて二日間高熱で我慢できないくらい大変な時に教会で牧師と伝道士が来られ祈ってくださった後、熱が下がって安定され薬を完全にやめて、ついに完治判定を受けました。高血圧で体の調子が悪かった所まで全部きれいに治癒されました。ハレルヤ！
“主はこう言われる。創造者、主、すべてを形づくり、確かにされる方。その御名は主。「わたしを呼べ。わたしはあなたに答え、あなたの知らない隠された大いなることを告げ知らせる。”（エレミヤ33：2,3）私に子のような大きくて驚くな事を行なってくださった神様を賛美します。主が再び来られる日まで主を愛し熱心に福音を伝えて生きます。

［信仰コラム］　かっこいい聖徒のモデルになりましょう

"...しかし実際、彼らが望んでいたのは、もっと良い、天にあるふるさとであった。..."
（ヘブライ書11:8～10、13～16）

聖書に啓示された神様に向いた信仰と聖書に啓示された神様のお言葉に対する信仰で神様の命令に従う聖徒が'かっこいい聖徒'であります。かっこいい聖徒の手本としてアブラハムとイサクとヤコブに関する記録を調べてみましょう。
まず、アブラハムについて記録された部分を調べてみます。
本文の 8 節を見てみると"信仰によって、アブラハムは、受け継ぐべき地に出て行けとの召しをこうむった時、それに従い、行く先を知らないで出て行った"と記録されています。アブラハムはどこに行くのかも分からずに神様のお言葉に黙々と従って出発しました。神様のお言葉を信じて従う人は天国に導きなさる神様の手を掴んだ聖徒になります。また、艱難が福になり、苦難が光栄に、試練が発展の機会になるよう導かれる神様の手を掴んだ聖徒になります。
次は、アブラハムと共にイサクとヤコブについて記録された部分を調べてみます。
本文の 9 節と 10 節に"信仰によって、他国にいるようにして約束の地に宿り、同じ約束を継ぐイサク、ヤコブと共に、幕屋に住んだ。彼は、ゆるがぬ土台の上に建てられた都を、待ち望んでいたのである。その都をもくろみ、また建てたのは、神である。"と記録されています。本文には聖徒の旅人人生としての正しい生活の態度にアブラハムとイサクとヤコブを手本に提示しました。
第一、"これらの人はみな、信仰をいだいて死んだ。まだ約束のものは受けていなかったが、はるかにそれを望み見て喜び"と記録されました。彼らは神様の約束が叶えられることを直接見ることはできなかったが、その約束の成就をみじんも疑いませんでした。その約束とは、救い主がこの世にお越しになるということと彼を信じて救いを得る数多くの人々に関することそして、彼らと共に得る基業と報いに対することです。今日、私達はメシヤがお越しになり救いを果たした以降に住んでいます。約束なさった聖霊を与えてくださり、神霊な恵みを豊かに与えてくださる時代に暮しています。しかし、私達にも未だに叶えられていない約束があります。イエス様の再臨と肉体の復活であります。私達も彼らに見習って旅人として暮す間に約束の成就を信仰で眺めながら歓呼して楽しみながら生きていくべきであります。
第二、"そして、地上では旅人であり寄留者であることを、自ら言いあらわした。"と記録されています。彼らは自分がこの世では寄留者と旅人として生活しただけではなく公に宣言しました。人々がアブラハムに"あなたは財産家なのになぜ堅固で派手な大きい家を建てずに天幕で暮しますか？"と尋ねたら"私達の人生はこの世に長く留まることができません。すぐ離れる寄留者であり旅人であります。"と答えたでしょう。
第三、"もしその出てきた所のことを考えていたなら、帰る機会はあったであろう。"と記録されています。しかし、彼らは帰りませんでした。聖徒は後ろに退いて滅亡に至る者になってはいけません。からすきを持って振り返る人は神様の国に合いません。信仰生活をしながら不信者であった時より環境的に苦難を受けることがあるとしても天国に向いて日ごとに行っているというこの一つだけでも感謝しながら賛美すべきであります。
第四、"しかし実際、彼らが望んでいたのは、もっと良い、天にあるふるさとであった。"と記録されています。我が主イエス様が備えられた天国に入ることを最終目標にして生きていく人はこの世に帰りません。神様はこのような信仰で生きる人々を誠に喜ばれ彼らのためにある城を予備なさいました。この城が我が主イエス様が予備なさった父親に家であります。まるで、花嫁が自分の夫のために装ったようの'新たなエルサレムの城'であります。
皆さんは神様に向いた従いの手を出して神様の約束のお言葉を掴み人生の道を行ってください。この世で寄留者と旅人として生きている事実を深く認識しながらいつも天にある古里を慕いながら生きていってください。このような聖徒がかっこいい聖徒であります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

そうすればあなたがたは堅く立つことができる

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人類歴史が始まった以来にこの世の中には戦うことと戦争のとどまる日がないです。 けんかと戦争に対するお話を除けば歴史書は表紙しか残らないだろう。 聖書にもカインがアベルを野原で打ち殺した事件から始めて聖書の最後の本である ヨハネの黙示録まで幾多のけんかと戦争の物語りを取り上げています。我が国は1950年から 1953年まで戦争を経験したし今も休戦協定の状態にあります。 我が政府と国民は平和統一のために 多方面で努力して来ているが、朝鮮戦争を起こした当事者である北朝鮮は数えきれなく休戦協定を違反しながら挑発と脅迫の度を高めています。国民の安寧と国家の繁栄のためには政府と国会と国軍と国民の役目が重要であるが教会がしなければならないし教会だけができる仕事があります。

第一は、教会が神様に叫んで祈らなければなりません。

ダビデ王はアブサルロムが叛軍をひいてエルサレムに進撃して来る時部下と王に付く民と一緒に避難の道に上がりました。 途中にダビデは卓越な謀士であるアヒドベルがアブサルロムに加わったという衝撃的な消息を聞きました。その瞬間ダビデ王は “アヒトペルがアブサロムと共謀した者のうちにいる」とダビデに告げる人があったのでダビデは言った、「主よ、どうぞアヒトペルの計略を愚かなものにしてください」。”(サムエル記下, 15:31)と祈りました。 エルサレムに無血入城したアブサルロムは戦略会議を召集しました。 アヒドベルは自分に軍事一万二千人を任せてくれればダビデ王の仲間をまっすぐに追撃して速戦即決をすると言いました。 ところでなぜなのかアブサルロムがフセの意見を聞き取りがほしくて彼を戦略会議に呼び入れました。 フセはダビデ王の友達で年上でした。 彼はダビデの避難行列に同参しようと思ったがアヒドベルの謀略を無効にする役目をしなさいという任務をダビデから受けてエルサレム城にありました。 アブサルロムが戦略会議にフセを呼び入れたことはダビデの祈祷に対する神様の回答でした。
フセは言うのを “アヒドベルが今度の助言したことは良くないです。” と断定した後代案を提示しました。 “私の計略はこのようです。全国で多くの軍事を募集して、王が親しく軍隊を領率なさって陣頭指揮してください。 まるで露が地の上に降りるように人海戦術で襲えばダビデ王とその仲間を全滅させるでしょう。” と言いました。 アブサルロムと臣下はアヒドベルの謀略よりフセの謀略がもっと良いという結論を下しました。 フセがこんな計策を提示した理由があります。 アヒドベルの謀略どおり実践されればダビデ王が殺されるようになることが明らかであるからアヒドベルの謀略が排斥させるためなのです。 そしてアブサルロムが全国で軍事を募集しようとして手間を取る間ダビデ王が危急な状況を免れて余裕を持って戦略を立てるようにするためなのです。
アブサルロムがアヒドベルの計策を退けてフセの計策を採択した結果でアブサルロムは戦死するようになって反乱は押えられました。 “「主よ、どうぞアヒトペルの計略を愚かなものにしてください」。” と訴えたダビデ王の切実な祈祷をきいた神様が摂理してくださったのです。
ヨホサバッ王がユダ国を統治する当時にモアブとアンモンとマオンそしてエドムが連合してユダ国を侵攻しました。 ヨホサバッが神様を向けて切に求める一方全民に禁食するように公布しました。 民は神様の助けを切に求めようとエルサレム聖殿に集まったしヨホサバッ王が聖殿の庭の前に立って祈りました。 すると神様がレビ人ヤハシエルを通じて回答のメッセージをくださいました。 “この戦いには、あなたがたは戦うに及ばない。ユダおよびエルサレムよ、あなたがたは進み出て立ち、あなたがたと共におられる主の勝利を見なさい。恐れてはならない。おののいてはならない。あす、彼らの所に攻めて行きなさい。主はあなたがたと共におられるからである』。”(歴代志下 20:17). 神様がくださるメッセージを受けた翌日朝、ヨホサバッ王は早く軍事と民を導いてモアブ連合軍を向けて出征しました。 ヨホサバッ王は歌う者を選んで聖なる礼服を着せて軍隊の前で行って “「主に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない」と言わせた。” と讃尿させました。 ユダ民がドゴアを向けて出発して讃尿し始める時に神様が奇妙で驚きべきを行いました。 格別な攻撃しようと来た連合軍の間に戦う事が発生しました。 神様が伏兵を置いて自中之乱が起るように摂理なさったのです。 その戦闘がいくら猛烈したのか全滅状態になってしまいました。
ユダ民が野原の望台に至って戦場を眺めたら地に折られた死骸だけでした。 ヨホサバッ王と民が行って敵軍の品物を獲得しました。 財物と衣服と宝物が持って行くことができない位の多くて三日の間に運ばなければならないほどでした。 四日目になる日、ユダ民が谷間に集まって神様が施した福を記念して讃尿しました。それからはヨホサバッ王を先頭にして来た民が勝利の歓喜で充満する中エルサレム神様の殿にひいては感謝礼拝を差し上げました。 歴代志下, 20章 26節にこんなに記録されています。 “四日目に彼らはベラカの谷に集まり、その所で主を祝福した。それでその所の名を今日までベラカの谷と呼んでいる。” ベラカ谷間はユダを攻め来た連合軍の集結地でユダ民を脅威する患難と問題の集結地でした。 しかし神様がヨホサバッ王と民の祈祷をきいてその所を ‘祝福の 谷’ がなるようにしてくださいました。

二番目は、教会が神様を嬉しくする仕事をしなければなりません。

神様を嬉しくするためには聖書どおり信じて聖書どおりの福音を伝えなければなりません。現在韓国の教会は途方もない脅威と挑戦に直面しています。 その中に一つは信者を誤れた道で導くリーダーの問題です。 他の一つは宗教多元主義の浸透です。 教会のリーダーと教人に方向の感覚を喪失させることがあります。聖書観と基督観が聖書から外れた神学思想と教理です。 個性、自律性、大衆性を重視して多元化、多様性を標榜するポストーモダニズムの傾向が政治、産業、芸術だけではなく基督教会にもつなみのように押し寄せています。
そして客観的基準、絶対的権威が排撃されて自分勝手に行うことを美徳で思う時代になりました。 神様を嬉しくしようと思うより人に喜ばれようと思います。 福音の本質から脱しても大衆の呼応と支持を受けるのをもっと望みます。福音を歪曲して信者を撹乱するリーダーによって屈強ではない者が方向感覚を失って福音を離れ去って歪曲された道を従っています。 今日の教会は自分アイデンティティを失くしたリーダーと信者が増えています。 ガラテヤ人への手紙, 1章 6節と 7節に記録されるのを “あなたがたがこんなにも早く、あなたがたをキリストの恵みの内へお招きになったかたから離れて、違った福音に落ちていくことが、わたしには不思議でならない。それは福音というべきものではなく、ただ、ある種の人々があなたがたをかき乱し、キリストの福音を曲げようとしているだけのことである。” としました。 ここで言いた要旨は “福音だと呼ばれるのが多くの人あっても真正な福音はただ一つしかない。” と話したのです。 多元主義的な救援論を徹底的で完全に遮断しています。

好戦的な北朝鮮当局、そして朝鮮半島を中心に利害関係を異にする強大国の角逐によって我が国の安保問題の解決方法は誰も壮語することができない難題です。 しかし私たちが希望を持つ理由があります。
第一、聖徒は平和統一、福音による統一のために小部屋で、教会堂で、聖徒が集まるすべての聖会で南北分断のその日から今まで一心で祈っています。 北朝鮮は去る 70年の間基督教会抹殺政策を徹底的に施行したが まだ地下教会が存在しています。 殉教した北朝鮮聖徒の血が神様に訴えています。 今も殉教を覚悟して信仰を守りながら息を殺して涙の祈祷を差し上げる聖徒があります。 神様がどうしてこれを見逃しますか?
第二、2千年キリスト教の歴史で我が国の教会歴史は非常に短いです。 しかし福音が我が国に伝えたその日から今日まで来た世界教会が刮目する途方もない復興をしました。 現在はアメリカの次で宣教師をたくさん派遣しています。ただ私たちが念頭に留めおいて力をつくさなければならないことがあります。 誤れた神学思想と宗教多元化の思想の波及によって教会が方向感覚とアイデンティティを喪失する事がないようにする仕事です。

愛する聖徒の皆さん、クリスチャンは救国一念で国家安保のために一致団結するのに国民の本になりましょう。 そして神様が面倒を見るのを信仰で切に求めて、聖書どおり信じてイエスキリストの福音を伝えるので神様を嬉しくしましょう。 神様がこのような教会を堅く立ててすべてが善にならせます。 聖徒の皆さんは皆が福音の波が北朝鮮を覆い被せることを見ることになって、大きい音で神様をほめたたえる “ベラカ谷間からの喜び” を味わうように願いします。